

「長尾雨山とその交友」展の開催—大学博物館の活性化に向けて

The “Nagao Usan and his friends” exhibition - Towards the revitalization of university museums

松村 茂樹¹, 下田 敦子², 青木 俊郎³, 高塚 明恵³, 田坂 有紀子³, 木村 淳⁴,
渡邊 顕彦⁵, 松田 春香¹, 戸田山 祐¹, 利根川 千枝子⁶, 廣野 朱音⁷, 傳 静⁷

¹大妻女子大学文学部, ²大妻女子大学人間生活文化研究所, ³大妻女子大学博物館, ⁴大妻女子大学非常勤講師,
⁵大妻女子大学比較文化学部, ⁶大妻女子大学大学院博士課程, ⁷大妻女子大学大学院修士課程

Shigeki Matsumura¹, Atsuko Shimoda², Toshiro Aoki³, Akie Takatsuka³, Yukiko Tasaka³, Jun Kimura⁴,
Akihiko Watanabe⁵, Haruka Matsuda¹, Tasuku Todayama¹, Chieko Tonegawa⁶, Akane Hirono⁷, and Sei Fu⁷

¹The Faculty of Humanities, ²Institute of Human Culture Studies, ³Museum, ⁴Part-time lecturer,
⁵The Faculty of Comparative Culture, ⁶The Doctoral Program, ⁷The Master's Program, Otsuma Women's University
12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-8357 Japan

キーワード：長尾雨山，展覧会，大学博物館，活性化

Key words : Nagao Usan, Exhibition, University museums, Revitalization

1. 研究目的

令和3(2021)年に開催された大妻女子大学博物館特別展「呉昌碩と日本人士—中国最後の文人と交流した書画文墨趣味ネットワークの人々」の成功を受け、今回、呉昌碩と上海で隣人として交流した漢学者・長尾雨山(1864-1942)とその交友の書画および資料を展示する大妻女子大学博物館特別展「長尾雨山とその交友—書画文墨趣味ネットワークの人々」を開催する。

また、同名のシンポジウムも開催し、展覧会および申請者による解説動画を共同研究者全員が観た上で、それぞれの専門の立場から、長尾雨山と「書画文墨趣味ネットワーク」について語り、ディスカッションもおこなう。

このことにより、長尾雨山が形成した「書画文墨趣味ネットワーク」の意義と影響力を明らかにすると共に、大学博物館活性化の方向性まで明らかにしたい。

2. 研究実施内容

① 大妻女子大学博物館特別展「長尾雨山とその交友—書画文墨趣味ネットワークの人々」の開催

令和7(2025)年1月14日～2月28日、大妻女子大学博物館特別展「長尾雨山とその交友—書画文墨趣味ネットワークの人々」が開催された。長尾雨山は、1903年～1914年の上海滞在中、呉昌碩

(1844-1927)をはじめとする中国の文人と交流し、当時最新の文墨趣味を日本に伝え、それに憧れる人士を「書画文墨趣味ネットワーク」で繋いだ。

この展覧会は、京都の安見昌幸氏より大妻女子大学博物館に長尾雨山「草書七絶書軸」が寄贈されたのを機に、長尾雨山と夏目漱石、岡倉天心、内藤湖南、富岡鉄斎、犬養木堂そして呉昌碩らその交友の書画および資料を展示することにより、長尾雨山が形成した「書画文墨趣味ネットワーク」の意義と影響力を明らかにするものである。

展示開催時期としては厳しい冬季にもかかわらず、来館者数は532名に上り、東京大学教授板倉聖哲氏、京都大学准教授呉孟晋氏、筑波大学名誉教授角井博氏をはじめ、専門分野の来場者も多かった。

上記展覧会は、令和6年度人間生活文化研究所共同研究プロジェクト「長尾雨山とその交友」展の開催—大学博物館の活性化に向けて(課題番号：K2416 研究代表者：松村茂樹)の助成を得て、大妻女子大学博物館の主催により開催された。まず、研究代表者の松村が大妻女子大学人間生活文化研究所准教授で同博物館併任教員の下田敦子氏に相談し、前回の「呉昌碩と日本人士」展同様、同博物館学芸員の青木俊郎氏が松村と共に展覧会の企画にあたり、青木氏および学芸員の高塚明恵氏、田坂有紀子氏の協力により運営された。また、展示図録は、解説を青木氏、大妻女子大学非常勤講師の木村淳氏

および松村が担当し、青木氏をはじめとする博物館学芸員・職員が、制作、発送を担当した。この図録および展示リストは、大妻女子大学博物館 HP と外部サイト（『奈良文化財研究所』「全国遺跡報告総覧」）でデータ公開され、統計の取れる外部サイトでは、2025年3月12日現在、詳細ページ表示回数：465、ファイルダウンロード数：266 を数えている。さらには、松村の要望を受け、青木氏がメディア教育開発グループに協力を依頼し、大妻女子大学博物館特別展「長尾雨山とその交友—書画文墨趣味ネットワークの人々」解説動画 Part1「長尾雨山について」（解説：松村茂樹）・Part2「展示作品について」（解説：青木俊郎、木村淳、松村茂樹）が制作された。この動画は『YouTube』で公開され、同日現在、Part1は683回視聴されている（Part2は4月公開予定）。こうして、上記展示会は、大妻女子大学博物館を中心として、大妻女子大学関係者の協力により、大きな成果を挙げることができた。

②ギャラリートークおよびシンポジウムの開催

令和7（2025）年2月20日、ギャラリートークおよびシンポジウムが開催された。ギャラリートークでは、同展示会図録解説を担当した青木氏、木村氏および松村が、全展示作品の解説をおこなった。また、シンポジウムでは、木村氏、利根川千枝子氏、廣野朱音氏、青木氏、松田春香氏、渡邊頭彦氏、戸田山祐氏、松村の順で発表をおこない、一般来場者を交えたディスカッションがおこなわれた。上記の呉孟晋氏もギャラリートークからご参加くださり、シンポジウムでは貴重なコメントをいただいた。そして高塚明恵氏より博物館学芸員の立場からコメントがあり、松村が挨拶をして終了した。

このシンポジウムは博物館および人間生活文化研究所 HP で広報された。この成果は、『人間生活文化研究』に投稿予定である。

3. まとめと今後の課題

上記①、②の開催により、研究目的である長尾雨山が形成した「書画文墨趣味ネットワーク」の意義と影響力を明らかにすると共に、大学博物館活性化の方向性を明らかにできた。

長尾雨山は、足掛け12年間滞在した上海でも、帰国後居を定めた京都でも、大きな雅会をいくつも主催しているが、いずれにおいても必ずもう一人の

主催者を立て、自らはその後ろに控えて、謙虚に物事を進めている。このような雨山の人脈形成力が各界名士を繋ぎ、「書画文墨趣味ネットワーク」を形成せしめたのである。

今回の展示会は、長尾雨山が形成した「書画文墨趣味ネットワーク」の意義と影響力を明らかにしようとするものであったが、コミュニケーションが重要視される昨今、このような雨山の人脈形成力にも共感が得られたのではないかと。

さすれば、今後も「ネットワーク」「コミュニケーション」といった人を繋ぐキーワードで展示会を開催することで、博物館の活性化が図れると考えるのである。

4. この助成による発表論文等

①雑誌論文

[1] 松村茂樹、下田敦子、青木俊郎、高塚明恵、田坂有紀子、渡邊頭彦、松田春香、戸田山祐、木村淳、利根川千枝子、廣野朱音、傅静「長尾雨山とその交友」展の開催—大学博物館の活性化に向けて」シンポジウム記録『人間生活文化研究』投稿予定

②学会発表

[1] 松村茂樹、下田敦子、青木俊郎、高塚明恵、田坂有紀子、渡邊頭彦、松田春香、戸田山祐、木村淳、利根川千枝子、廣野朱音、傅静「長尾雨山とその交友」展の開催—大学博物館の活性化に向けて」シンポジウム 令和7（2025）年2月20日、大妻女子大学千代田キャンパス G311A アクティブラウンジ

③解説動画

[1] 大妻女子大学博物館特別展「長尾雨山とその交友—書画文墨趣味ネットワークの人々」解説動画 Part1「長尾雨山について」（解説：松村茂樹）

[2] 大妻女子大学博物館特別展「長尾雨山とその交友—書画文墨趣味ネットワークの人々」解説動画 Part2「展示作品について」（解説：青木俊郎、木村淳、松村茂樹）

付記

本研究は令和6年度人間生活文化研究所共同研究プロジェクト「長尾雨山とその交友」展の開催—大学博物館の活性化に向けて」（課題番号：K2416 研究代表者：松村茂樹）の助成を受けたものです。